

平成30年度第1回世田谷区地域公共交通会議 議事概要

日 時：平成30年7月12日 午後15時00分から16時30分
場 所：世田谷区役所 第一庁舎5階 庁議室

道路・交通政策部交通政策課

会議の名称	平成30年度第1回世田谷区地域公共交通会議		
開催日時	平成30年7月12日(木) 午後15時00分～午後16時30分		
開催場所	世田谷区役所 第一庁舎5階 庁議室		
出席者	(敬称略)		
	所 属	氏 名	備考
	世田谷区道路・交通政策部長	小山 英俊	会長
	世田谷区道路・交通政策部交通政策課長	堂下 明宏	
	世田谷区高齢福祉部長	瓜生 律子	
	東京都交通局自動車部計画課長	和田 明	
	京王バス東株式会社 運輸営業部乗合事業担当	伊田 修	代理
	小田急バス株式会社運輸計画部課長	古谷 弘文	
	東急バス株式会社運輸事業部運輸計画部計画課長	原山 大輔	
	関東バス株式会社運輸部	信田 健一	代理
	一般社団法人東京バス協会乗合業務部長	依田 修	
	一般社団法人東京ハイヤー・タクシー協会業務部業務部長	小池 毅	
	世田谷区町会総連合会会長	山野井 崇二	欠席
	世田谷区商店街連合会副会長	本杉 香	
	市民(公募)	内田 すみ江	
	市民(公募)	斎藤 恒一郎	
	国土交通省関東運輸局東京運輸支局	石川 龍太	代理
	東京都交通運輸産業労働組合協議会バス部会	庭野 修	代理
	東京都交通運輸産業労働組合協議会ハイタク部会事務長	久我 恒夫	
	国土交通省関東地方整備局東京国道事務所管理第一課長	山本 裕一	
	東京都建設局第二建設事務所管理課長	高橋 伸子	
	世田谷区土木部長	五十嵐 慎一	
	警視庁交通部交通規制課課長代理	石田 眞悟	
警視庁世田谷警察署	飯塚 智久	代理	
警視庁北沢警察署交通課長	山岸 秀実		
警視庁玉川警察署交通課長	嘉村 満仁		
警視庁成城警察署交通課長	藤倉 徹		
日本大学理工学部交通システム工学科助教	稲垣 具志		

事務局	道路・交通政策部交通政策課長 堂下明宏 交通企画担当係長 丸山寛樹 担当職員 高村実花 青木卓也 森千佳 株式会社セントラルコンサルタント 2名
会議の公開 非公開 一部非公開の別	公開
傍聴人の数	3名
会議次第 内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開 会 2. あいさつ 3. 委員の紹介 4. 世田谷区地域公共交通会議設置要綱 5. 報告事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 世田谷区の公共交通の現状と課題について (2) モデル地区での取り組みについて 6. その他 7. 閉会

次第1【開会】

次第2【あいさつ】

会長よりあいさつ。

次第3【委員の紹介】

資料1「平成30年度世田谷区地域公共交通会議委員名簿」のとおり各委員自己紹介。

次第4【世田谷区地域公共交通会議設置要綱】

資料2「世田谷区地域公共交通会議設置要綱」の概要について事務局より説明。

【質疑応答】

○委員 世田谷区地域公共交通会議設置要綱の第5条－4項に「議決を要する事項は全会一致を原則とする」「これが困難な場合は出席委員の3分の2以上で決する」とあるが、原則全会一致を目指す、困難な場合は努力義務にするというように読みかえて良いか。

○事務局 この要綱をつくるにあたり、他自治体の地域公共交通会議の設置要綱等を参考にした。どうしても意見が分かれるときには、話し合いの中で3分の2以上で決するというのを押さえておきつつ、基本的な理念としては全会一致を目指す形で考えていきたい。

次第5【報告事項】世田谷区の公共交通不便地域対策の概要

資料3「世田谷区の公共交通不便地域対策について」について事務局より説明。

次第5【報告事項】（1）世田谷区の公共交通の現状と課題について

資料4「世田谷区の公共交通の現状と課題について」について事務局より説明。

次第5【報告事項】（2）モデル地区での取り組みについて

資料5「モデル地区での取り組みについて」について事務局より説明。

【質疑応答】

○委員 資料3に「平成31年度以降モデル地区での実証運行の実施」と書かれているが、運行ルートの決定・バス停設置箇所の検討など、おおむねのスケジュールの流れはできているか。

○事務局 現在モデル地区では地元の方々と勉強会を開いており、停車場所やルートについて様々な案をいただいている。今後、車両制限令への対応やバス停設置箇所の選定を行っていく中で、ルートを絞っていく必要があると考えている。

運行手続き等については最低1年かかると見込んでいるが、ルートやバス停などがスムーズに決まるかどうかにかかっており、その中で、今後警察や運輸局、本会議等に諮る必要があると考えている。

○委員 モデル地区である砧地区で勉強会を行っており、ワゴンタイプの車両を使ったコミュニティ交通を展開していくという説明があったが、今後、取り組みを区内全域に広げていく際に、何がモデルになり、何が広がっていくのかという点が気になる。区内は狭い道路が多いためワゴン車両のコミュニティ交通を走らせるという行為を広げていくことなのか、地域で勉強会を開催し、アンケートを取るという計画のスキームを広げていくということなのか。

モデル地区において、地区に住んでいる高齢者・障害者が移動の質をどれだけ高めていけるか、また何らかの理由があり外出できていない方に対していかに外出の促進をしていくかなど、外出・移動のあり方について議論が進んでおり、住民の意識が醸成された状態でこのような新しい公共交通を運行し、それを全区的に展開していくということであれば素晴らしいことであると思う。モデル地区でどのようなレベルまで議論が深められているのか教えていただきたい。また、区のスタンスを教えていただきたい。

○事務局 世田谷区では、公共交通不便地域外にお住まいの方からもバスを通してほしいという声が挙がっている。そんな状況を踏まえ、世田谷区の新たな公共交通を考えていくにあたり、平成28年から他の自治体でどのような取り組みが行われているかを調査した。その中で、参考にしたのは地方で行われている取り組みではなく、横浜市や川崎市が行っている地元の住民による発意で現在の不便な交通状況を自らの手で解決していくというもので、このような住民主体での取り組みが世田谷区でもできないかと考えて検討を進めてきた。

スキームについては、まず砧地区において本格運行を目指し、その取り組みをモデルケースとして、他の地域でも新しい公共交通を導入する際に使える制度を構築するというものを考えている。実証運行から本格運行につなげたときにしっかりと継続できるようなスキームにするため検討している。

2つ目の質問については、地方の不便さとは違う中で、どこまで区民の皆様が新たな公共交通を導入していきたいと思えるのか。この機運の醸成は難しいところがあると思っている。

今はまずモデル地区内に新しいコミュニティ交通を走らせることを目指し、その取り組みの中で機運の醸成を図り、住民主体の形につなげていきたいと考えているが、残念ながら、現段階ではその理想まで進んでいないと思っている。

○委員 勉強会では手段である公共交通について勉強し、何が実行可能かをまず考えている状況で、地域のモビリティをどう考えるのか、高齢者や障害者、子育て世代の方々の外出促進や支援をどう考えるかなどの議論は今後やっていくということか。

○事務局 そのとおりです。

○委員 資料のアンケート結果の取りまとめ内容がわかりにくい。何を目的にアンケートを取ったのかわかりやすくした方が良いと思う。また、通院に不便を感じている方はバスやタクシーを利用されている方が多いようなので、新しく病院に向かうバス路線を運行させると乗客の奪い合いになるのでは。

○事務局 資料のご指摘をうけ、次回からわかりやすく資料を修正する。競合の話については議論の肝になると考えている。モデル地区周辺には路線バスが走っており、祖師ヶ谷大蔵駅や病院に行きたいという声があるので、競合関係については既存の交通事業者と今後調整をしていく。

○委員 アンケートの移動に対する満足度を聞く質問について、通常この質問の回答は「満足している」「満足していない」等になると思うが、回答に「必要ない」がある。どういった方が必要ないと答えられているのか。以下、満足度という言葉で資料が続いていくためこのアンケートにおける満足度の定義を確認したい。

○会長 どういった意図の質問で、どういった意図の選択肢であったか確認させていただく。

次第6【その他】

資料6「世田谷区版図柄入りナンバープレート（寄付金付き）の取組みについて」について担当所管より説明。

次第7【閉会】

○事務局 次回の開催の予定は来年2月頃を予定している。モデル地区の取り組みについては地域住民の方とともに来年度以降の実証運行に向けた検討を引き続き行っていく。ルートなど詳細な事業モデルは今後も関係者の皆様と調整し、精査していきたいと考えているのでご協力をお願いします。次回の会議ではモデル地区で運行する新しいコミュニティ交通の事業モデルをご提示する予定である。

また、本会議の所掌事項である区内の道路における旅客の運送のあり方の検討や、他の施策との連携、これまでの取り組みの充実等の施策についても次回以降行いたいと考えている。

【意見・要望】

○委員 高齢者は自立して生きていきたい、少しぐらい体が悪くても人の世話にはならず生活したいというのが高齢者の切実な願い。そのためには移動手段としてコミュニティバスは必要。

○委員 モデル地区のテストケースを将来的に区内で展開するということが、今後展開していくにあたり環境に優しいエネルギーを利用する車を走らせるなどして、バスや鉄道以外の世田谷モデルを作り上げ、そのような取り組みに賛同する区民を増やしてほしいと思う。また、エネルギーだけでなく子供や福祉などの領域とも連携した施策をしてほしい。

○会長 広い視野で様々な施策を含めた展開を考えていきたいと思う。

○事務局 自由が丘では単純にバスを走らせるのではなく、廃油を活用して走るサンクスネイチャーバスという環境面に配慮したバスが運行されている。

また、収支率の悪いコミュニティバスにおいて収入をいかに確保していくかという課題は避けては通れない。収入をいかに確保していくかアイデアを出し、継続的な運行につなげていきたいと思っている。

「閉会」